

算定方法の留意事項

【移動支援サービス】

◎「所要時間 30 分未満の場合」の算定方法

この場合の所要時間は 20 分以上とする。

所要時間 20 分→30 分で算定可能

所要時間 15 分→算定不可

これらの考え方により、所要時間 45 分の場合は 30 分で算定すること。

◎時間帯跨ぎの考え方

早朝 6：00～8：00、日中 8：00～18：00、夜間 18：00～22：00、
深夜 22：00～6：00 サービス時間が異なる時間帯を跨ぐ場合について。

①（例）17：00～20：30の場合

身体介護を伴う（跨ぎコード最長3時間）

17：00～18：00 →日中1.0
18：00～20：00 →夜間2.0
20：00～20：30 →夜間増0.5

} 合わせて3時間
(コード：011455)
(コード：011931)

サービス内容	算定単価	算定回数	支給基準額
011455 移動介護日中 1.0 夜間 2.0	9600	1	9600
011931 移動介護夜間増 0.5	930	1	930

身体介護を伴わない（跨ぎコード最長1.5時間）

17：00～18：00 →日中1.0
18：00～18：30 →夜間0.5
18：30～20：30 →夜間増2.0

} 合わせて1.5時間
(コード：016335)
(コード：016499)

サービス内容	算定単価	算定回数	支給基準額
016335 移動日中 1.0 夜間 0.5	2590	1	2590
016499 移動夜間増 2.0	3710	1	3710

身体介護を伴う最長3時間、身体介護を伴わない最長1.5時間それを超えてしまうと全て増コードを算定すること。

②（例）10：00～19：00の場合

10：00～18：00→日中8.0

ここで最長3時間も1.5時間も越えているので、両方とも日中8.0と

18：00～19：00→夜間増1.0の2つに分かれる。

身体介護を伴う 日中8.0（コード：011171）と夜間増1.0（コード：011935）

身体介護を伴わない 日中8.0（コード：016171）と夜間増1.0（コード：016491）

算定方法は同じだが、コードと金額が違う。

身体介護を伴う場合

サービス内容	算定単価	算定回数	支給基準額
011171 移動介護日中 8.0	15950	1	15950
011935 移動介護夜間増 1.0	1860	1	1860

身体介護を伴わない場合

サービス内容	算定単価	算定回数	支給基準額
016171 移動日中 8.0	12030	1	12030
016491 移動夜間増 1.0	1860	1	1860

★①②を通じての考え方

サービス開始時間から何時間後に時間帯を跨ぐかどうかで、合成コードを使うかどうかが決まる。

開始時間から「身体介護を伴う場合」は3時間後、「身体介護を伴わない場合」は1.5時間後で、時間帯が異なる場合は合成コード、時間帯が同じ場合は、同じ時間帯を全てひとまとめにする。

また、1つのサービスで何らかのコードを1つ算定すると、残りの時間は全て増コードを算定する。

◎「時間帯跨ぎ」と「所要時間が30分未満の場合」がどちらも適用になる場合

①（例）16：15～18：15→日中2.0

18時までは日中。

残り15分は、20分未満になるので夜間に跨がず、日中2.0で算定する。

②（例）16：20～18：20

身体介護を伴う 日中1.5・夜間0.5（コード：011459）

身体介護を伴わない 日中1.5（コード：016119）と夜間増0.5（コード：016487）

この場合、18時以降に20分間サービス提供しており、夜間コードで0.5を算定できるので、上記コードを算定する。

伴う場合

サービス内容	算定単価	算定回数	支給基準額
011459 移動介護日中1.5夜間0.5	7140	1	7140

伴わない場合

サービス内容	算定単価	算定回数	支給基準額
016119 移動日中1.5	2390	1	2390
016487 移動夜間増0.5	930	1	930

③（例）7：45～8：15→早朝0.5

15分ずつで跨いでいる場合は、スタートした時間帯のコードを優先して算定する。

同じように

17：45～18：15→日中0.5

21：45～22：15→夜間0.5 と算定する。

◎「1日に移動支援を複数回算定する場合」の算定方法

1日に移動支援を複数回算定する場合にあっては、概ね 2時間以上の間隔を空ける必要がある。

中抜き等で一旦サービスを終了している場合、空白時間が2時間以内であれば、合算して算定すること。

（例）3/4 10：00～12：00

3/4 13：00～16：00

→合算し日中5.0と算定する。

3/5 10：00～12：00

3/5 15：00～18：00

→日中2.0と日中3.0を別々に算定します。

【通学支援サービス】

◎基本的な考え方

時間帯という考え方はなく、どの時間でも統一の単価。

開始 30 分に関しては、20 分未満であっても、「0.5」で算定できる。

しかし、それ以降は、移動支援サービスと同様である。

(例) 8:00~8:15 (15 分間) → 0.5

8:00~8:40 (40 分間) → 0.5

8:00~8:50 (50 分間) → 1.0

◎加算について

通学支援サービスに関しては、2 年以上の実務経験があればサービス提供が可能。

ただし、実務経験のみであれば、加算なしコードの金額での算定になる。有資格者がサービス提供を行った場合は、加算ありのコードで算定する。

◎2 時間ルールについて

移動支援サービスと同じく、サービスとサービスの間が 2 時間空かない場合は合算すること。

(例) 4/10 8:00~8:30

4/10 9:30~10:30

→ひとまとめで 1.0 での算定になる。

よくあるQ&A

Q. 10：00～23：30 でサービス提供した際の算定方法について。

A. 身体介護伴う・伴わないともに、

10：00～18：00 日中 8 時間

18：00～22：00 夜間増 4 時間

22：00～23：30 深夜増 1.5 時間

このように、長時間の内容であっても、1 回のサービスで1つのコードを算定すると、残りは全て、「増」のコードを重ねて算定すること。

Q. 2人介護で途中、1人介護になる場合について。

12：00～19：00 A ヘルパー

12：00～12：30 B ヘルパー

18：30～19：00 B ヘルパー

A. 身体介護伴う・伴わないともに、

12：00～18：00 日中 6 時間

18：00～19：00 夜間増 1 時間

12：00～12：30 日中 0.5 時間・2 人

18：30～19：00 夜間 0.5 時間・2 人

「2 人」というのは、「2 人目」ということであるため、必ず、「2 人」の記載があるコードを利用すること。

また、B ヘルパーは、一旦サービスを終了し、2 時間以上経過後再度サービスに入っているため、増のコードを算定ないが、A ヘルパーに関しては、一連のサービスであるので夜間の時間帯のサービスは、増のコードで算定する。

Q. 2時間ルールと時間帯跨ぎがどちらも適用になる場合の算定方法について
14：30～19：30
中抜き 16：00～17：30

A. 身体介護を伴う場合

14：30～16：00	日中 1.5 時間・・・①
17：30～18：00	日中 0.5 時間・・・②
18：00～19：00	夜間 1.0 時間・・・③
19：00～19：30	夜間増 0.5 時間

に分解し、①～③はひとまとめにする。

◎日中 2.0 夜間 1.0(コード：011475)

夜間増 0.5(コード：011931) を算定する。

身体介護を伴わない場合

14：30～16：00	日中 1.5 時間・・・①
17：30～18：00	日中 0.5 時間・・・②
18：00～19：30	夜間増 1.5 時間

に分解し、①～②をひとまとめにする。

◎日中 2.0(コード：016123)

夜間増 1.5(コード：016495) を算定する。

以上のように、中抜きがあった場合は、サービス時間を分解し、算定ルールに則って請求すること。